## 速く細密に 桜の理想型



ら万了干人超の観客からカウントダ ウンの叫びがこだました。決勝トーナ メントへ。FB山中が左足で球を蹴り 出した。試合終了。日本が歴史を塗り 替えた。

4 手前に致わたスコットランドへの 雪琴戦。前半のトライラッシュが勝負 を失めた。

速いテンポで球を動かし続ける。同 集からフッカー堀江が前へ。ロックの ムーア、FBトゥポウを経由して最後 はプロップ稲垣が飛び込んだ。稲垣に つなぐまでの3人は、タックルを受け ながら球をつなぐ「オフロードパス」 を狂いなく通した。

ブラウン攻撃コーチが「日本の選手 はスキル習得に勤勉に取り組む。まぐ **凡でなく、 中念に東野を強んできた**| と自信を見せる技。稲垣は「トライに 至るまでのプロセスが理想とする形だ 

「打倒・ティアュ(強豪国と伝統 国)」がチームの目標だった。この4 年間、日本はティア1の

全チームと対戦し、勝て たのはわずか1回だけ。 ヌ杯開幕前の9月2 日。チームが再集合した

ミーティングで、ジョセフヘッドコー チは6日前に大差で敗れた南アフリカ 戦のプレー映像を見せた。「了「幸差で ついていかないといけない。細かいミ スは勝敗に大きな影響を与える」。強 豪に勝つには、一つのチャンスを生か す勝負強さ、細部へのこだわりが必要 だと訴えた。

その姿勢を最終盤の防御で発揮し、 猛攻をしのいだ。 「プレッシャーをか けようと全員が動けた。我慢して『反 則はしないぞ』と言い合った」とりま **日中村。 反則から自滅した以前の日本** の姿はなかった。

選手たちは大きな目標を達成してな **お、さらなる或長を誓う。主将のリー** チは「(準々決勝で戦う)南アフリカ にも負けるつもりはない。勝つ気で準 備する」と言い切った。 ( 22円 ( 21 ) 姫野(日) 再三のボール奪取で貢献。

スコットランドは速く、手ごわかった。 ここを突破するために4年間やってきた。

## る判断 骨大な集団に成長 ひ) からジョセフHひへ。 南アフ リカを破った前回大会から4年。 築かれた上台に、新たな指揮官に よって確実にチーム力が上積みさ ジョーンズ前耳じは細かい決め 事を作って選手を動かした。ジョ セフHCは失め事に加え、状況に 広じた判断を選手に求めた。

別えば、難の選手をおとりにし て更に外側の選手に投げる飛ばし パス。衣的すれば一発で坊御を破 れる一方、球を失うリスクも高い プレーだ。ジョーンズ前耳りは原 則禁止にしたが、ジョセフHCは 「いける」と選手が判断すれば認 めた。アイルランド戦の逆転トラ イは、CTB中村の飛ばしパスが 生んだものだ。

ジョセフHCは元ニュージーラ ンド代表。「王国」の強さの源は、 個々の優れた判断能力にあると知 っている。日本の成長のため、そ

ジョーンズヘッドコーチ(H れが必要だと考えた。合信では体 力を追い込んでからの実験練習で 選手に的確な判断を促し続けた。

グラウンド外でも選手に考えさ せた。トップダウンの前任者と違 、ジョセフHCは主将のリーチ に加えてら人の「リーダー」を指 名し、責任を与えた。「リーダー シップの分担がチームを強くす る」との信念から。何も発言しな い選手もいたミーティングは今 コーチ抜きで頻繁に開かれるとい

練習では細かい指導をコーチに 任せ、どんと糖える姿が印象的な ジョセフHO。「スロットランド に経験値が劣る中、選手は最高の プレーをした」と誇った。8大会 連続▼杯出場のSH田中は「やら されるラグビーから自分たちで判 断するラグビーに変わった」と成 長を語る。

骨太な集団に日本は育った。 (細田城1])

**分、負傷交代。自慢のスクラムが** 組めなくなった。「よくやった。 落ち込むことない」。同じプロッ プで控えだった中島が、出てきた 具にかっと言うた。

2

自連改が付近、ピンチのスクラ ムだった。氏わって3番に入った のはバル。緋色の塊を受け止め、 グッと押し込む。たまらず崩した スコットランドの反則を告げる主 箸の長い笛に、フッカーの堀江は してやったりの表情をみせた。

通用しない。小伎が漂意な日本ラの物だった。

具智元は泣いていた。前半弘 グビー界は長く、この課題を後回 しにしてきた。長谷川スクラムコ ーチの下、宮崎で網走で、ひざの 角度、足の位置など細部を詰めて きた。バックスの福岡や松島が派 手に走り回れるのも、一歩でも、 一

だでも

前へ

という

下

の

思い

が あるから。長谷川コーチは「蛾わ れた。攻めるスクラムができた」 と感無量だった。

前半
の
分の
勝ち越
しは、
稲垣が 中央へ飛び込んだ。珍しいプロッ プのトライ。このチームをがっち スクラムで勝たなければ世界で
り支えるFW第1列へ、最高の贈 (株田野松)

## スコットランド意地

決勝トーナメント進出の が上がると、防御ラインが ためには勝利が絶対条件だ下がり、ついていけなかっ

ったスロットランド。後半 の立ち上がり、日本に最大 2点のリードを許した。 フ かし、ここから意地を見せ る。大きな展開を仕掛けて 連続トライ。だが、追いつく ことはできなかった。もっ たいなかったのは前半の妨 御だ。日本の攻撃のテンポ

た。SHVイドローは「% 点を与えたのは、大きかっ た」。2大会ぶりに1枚リー グで敗退した。タウンゼン ド監督は「日本はすばらし

いチームだった」と語した。 11月 2日18:00 構范国路総合體札 ※3位決定機 11月1日18:00 ウェールズ・

スコットランドに勝利し喜ぶ日本の選手たち=上田淵摄影 宿沢広朗 小談族 ○ 19 - 12 アイルランド ○ 38 - 19 サモア ○ 28 - 21 スコットランド ● 28 – 50 アイルランド ● 17 – 145 ランド W杯最多失点 スコットランド ● 10 - 45 スコットランド 9 - 47 スコットランド 7-60 イングランド アルゼンチン - 32 南アフリカ 立(当8)から W杯2勝目 15-64 ウェールズ O 52 - 8 ジンパブエ 初勝利 29-51 フランス フランス **■ 13** - 41 74ジー 31 - 35 フィジー ▲ 12 - 12 カナダ 23 - 23 カナダ 26 - 5 HEP 7くロ 01 18 - 31 トンガ 田米 〇 28 - 18 米国 16 - 32 12 - 33 11 - 32 21 - 47 42 22 43 16 72 26 - 39 7 - 83 O 34 - 32 **■** 18 -世界3位(3 30 -10 -• • • • 0 • 4 0 學至 南アフリカ ウェールズ 114-2 日本

Copyright The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission されていま 日本の著作権法並びに国際条約により保護 の内容は トグ p 掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。